



國立中央大學

頒授海部俊樹先生名譽博士典禮

海部俊樹元首相 國立中央大學名譽博士称号授与式



2012.3.8

目錄

典禮程序表 / 式次第	I
名譽博士表彰辭 / 名譽博士顕彰状	2
貴賓介紹 / 来賓略歴	4
引言人紹介 / 紹介人略歴	5
海部俊樹先生簡介 / 海部俊樹氏略歴	8
海部俊樹先生專題演講 / 海部俊樹氏記念講演	9
海部俊樹先生得獎感言 / 海部俊樹氏受賞挨拶	12

典禮程序表

頒授海部俊樹先生名譽博士典禮流程

海部俊樹元首相　名誉博士称号授与式　次第

10:00-10:05	典禮開始 / 開式
10:05-10:15	校長致詞 / 学長挨拶
10:15-10:30	貴賓致詞 / 来賓祝辞
10:30-11:10	引言人致詞 / 海部元首相の功績紹介
11:10-11:15	宣讀名譽博士學位證書 / 名譽博士記読上げ
11:15-11:20	頒授名譽博士學位證書 / 名譽博士記授与
11:20-11:50	名譽博士致詞暨專題演講 / 名譽博士挨拶及び記念講演
11:55-12:00	禮成 / 閉式
12:00-12:15	「友好之櫻」前大合影 / 「友好の桜」前で記念写真撮影

海部俊樹先生名譽博士表彰辭

海部俊樹先生，日本前首相，曾擔任兩屆首相和兩屆教育部長，1960 年以最年輕之姿當選日本國會議員，共十六屆，從政生涯長達五十年。先生畢生將教育及環境問題視為志業，從政期間，積極投入並解決世界地球環境各項問題，深具國際影響力。

先生早在就讀以佛教興學之高中時，體認「山川草木悉皆成佛」之理念，開啟他思索人類與大自然共處共生之哲學。1964 年創立日本青年海外志工團，並以團長身分帶團訪問非洲地區，訪問期間重新思考「與環境共生共存」之問題，奠定日後推動地球環境及環保政策之重要信念。

1989 年 8 月初任首相之海部先生旋即訪問美國、加拿大與墨西哥，提倡為地球環境問題共同成立 Global Partnership，獲各國確認支持。同年 9 月，於東京召開「地球環境保護會議」，宣示日本將積極投入解決世界地球環境領域各項問題。翌年 7 月，成立環境廳企劃整備局地球環境部，為第一個地球環境專責機關，全力推動地球環境保護政策。

中央大學 1915 年在南京創校，1962 年在台灣復校，在台以地球科學起家，今年正好滿五十週年。中大擁有全國獨一無二之「地球科學學院」，長期以來，以守護著我們居住的家園和地球自許。

中大前校長、中央研究院院士劉兆漢是台灣最早倡導「永續發展」概念的學者之一，帶領中大致力於環境監測、國土保育、全球氣候變遷等之前瞻研究。現任教育部長、前中央大學校長蔣偉寧積極倡導「綠色啟動」計畫正是該精神之延續，將從教學、研究、服務及生活各方面落實綠色概念，期許中大成為一所綠色指標性大學。

先生於地球環境保護領域扮演重要角色，長期不遺餘力推動國際環境保護政策，成果斐然，與中央大學推動永續發展、綠色啟動等理念相契合。他的傑出貢獻，足為本校師生之典範，特頒授名譽理學博士，以表彰其宏觀視野與對地球環境保護之重大貢獻。

國立中央大學代理校長

劉 振 榮

2012.3.8

海部俊樹氏名誉博士顕彰状

日本元首相海部俊樹氏は、首相を二代、文部大臣を二度務められ、1960 年に最年少として初当選以来、十六期にわたり国會議員としての重責を果たし、五十年間という長い歳月を政治に捧げられた。世界的に強い影響力を持つ海部氏は、教育と環境問題をご自身のライフワークとし、政治家として地球環境における諸問題に積極的に取り組み、力を注いで来られた。

海部氏は、仏教精神に基づいた教育を行う高校在学中に、早くも「山川草木悉皆成仏」の思想を体得され、これをきっかけに人類と大自然の共存共生の哲学について思考探求し始めた。1964 年には日本青年海外協力隊を発足し、団長としてアフリカ地域を訪問。その間、「環境との共生共存」について改めて考え、後日地球環境及び環境保全政策を推し進める際の信念の礎を固められた。

1989 年 8 月に首相に初就任された海部氏は、ただちにアメリカ、カナダ、メキシコを歴訪し、地球規模の環境問題に共同で取り組むための「グローバル・パートナーシップ」推進を呼びかけ、各国の確認・支持を得た。同年 9 月に「地球環境保全に関する東京会議」を開催し、地球環境分野における諸問題に日本が積極的に取り組む決意を述べられた。翌年 7 月には初の地球環境専門機関として、環境庁企画整備局地球環境部を設置、地球環境保全に関する政策を全力で進めた。

我が中央大学は 1915 年に南京に創立され、1962 年に地球科学研究をスタートに台湾で学校を再開し、今年でちょうど五十周年を迎える。台湾唯一の「地球科学学院」を有し、長い間、自らが住む故郷と地球を守ることを使命に活動してきた。

元学長の劉兆漢中央研究院院士は台湾で初めて「持続的発展」の概念を唱えた学者の一人で、そのリーダーシップのもと、本学は環境モニタリングをはじめ、国土保全、地球規模の気候変動等の先端研究に進んで取り組んできた。現在の教育部長である蔣偉寧前学長が精力的に提唱した「グリーンイニシアティブ」計画はまさにその精神を受け継いだプロジェクトで、教育から研究、奉仕、生活まで、あらゆる面で環境配慮の考え方を具現化し、環境配慮において指標となる大学づくりを目指している。

地球環境保全の中心的役割を果たす海部氏は、長年、国際的な環境保全政策の推進に惜しめない努力を注ぎ、卓越した成果を挙げている。このような功績は、持続的発展、グリーンイニシアティブ等を推進する中央大学の理念とまさに合致し、本学の学生・教員に範を示すもので、中央大学は海部氏の顕著な貢献に敬意を表し、ここに名誉理学博士の称号を贈呈して、その大局的見地と地球環境保全への大いなる功績を顕彰するものである。

国立中央大学学長代行

劉 振 榮

2012.3.8

貴賓介紹 / 來賓略歷 | 永井和之教授 / 永井和之 NAGAI Kazuyuki



現職：
日本中央大學法學院教授
日本中央大學 法学部教授

- 經歷：
- ・ 學校法人中央大學總長 (2005/12-2011/11)
 - ・ 中央大學校長 (2005/11-2011/11)
 - ・ 學校法人中央大學理事 (2005/11-2011/11)
 - ・ 中央大學研究所法務研究科教授 (2004/04-2007/03)
 - ・ 學校法人中央大學理事 (2002/05-2005/05)
 - ・ 中央大學法學院院長 (1999/11-2003/10)
 - ・ 中央大學通信教育部部長 (1993/11-1997/10)
 - ・ 學校法人中央大學評議員 (1993/11-)
 - ・ 中央大學法學院教授 (1981/04-)

- 經歷：
- ・ 学校法人中央大学総長 (2005/12-2011/11)
 - ・ 中央大学学長 (2005/11-2011/11)
 - ・ 学校法人中央大学理事 (2005/11-2011/11)
 - ・ 中央大学大学院法務研究科教授 (2004/04-2007/03)
 - ・ 学校法人中央大学理事 (2002/05-2005/05)
 - ・ 中央大学法学部長 (1999/11-2003/10)
 - ・ 中央大学通信教育部部長 (1993/11-1997/10)
 - ・ 学校法人中央大学評議員 (1993/11-)
 - ・ 中央大学法学部教授 (1981/04-)

引言人介紹 / 紹介人略歷 | 許水德先生 / 許水德氏



現職：
財團法人亞太文經學術基金會董事長
台灣日本研究學會名譽會長

財団法人亜太文経学術基金会董事長
台湾日本研究学会名誉会長

- 經歷：
- ・ 總統府資政 (2002-2006)
 - ・ 亞東關係協會會長 (2002-2004)
 - ・ 考試院院長 (1996-2002)
 - ・ 中國國民黨中央委員會秘書長 (1993-1996)
 - ・ 駐日代表 (1991-1993)
 - ・ 內政部部長 (1988-1991)
 - ・ 台北市市長 (1985-1988)
 - ・ 高雄市市長 (1982-1985)
 - ・ 高雄市政府秘書長 (1979-1982)
 - ・ 國民黨中央委員會社會工作會主任 (1979)
 - ・ 台灣省政府社會處長 (1975-1979)
 - ・ 高雄市政府主任秘書 (1973-1975)
 - ・ 高雄市政府教育局長 (1970-1973)
 - ・ 屏東縣政府教育局長 (1969-1970)
 - ・ 屏東縣政府教育科長 (1968-1969)

- 經歷：
- ・ 總統府上級顧問 (2002-2006)
 - ・ 亜東関係協会会長 (2002-2004)
 - ・ 考試院院長 (1996-2002)
 - ・ 中国国民党中央委員会秘書長 (1993-1996)
 - ・ 駐日代表 (1991-1993)
 - ・ 内政部部長 (1988-1991)
 - ・ 台北市市長 (1985-1988)
 - ・ 高雄市市長 (1982-1985)
 - ・ 高雄市政府秘書長 (1979-1982)
 - ・ 国民党中央委員会社会工作会主任 (1979)
 - ・ 台湾省政府社会処長 (1975-1979)
 - ・ 高雄市政府主任秘書 (1973-1975)
 - ・ 高雄市政府教育局長 (1970-1973)
 - ・ 屏東県政府教育局長 (1969-1970)
 - ・ 屏東県政府教育科長 (1968-1969)

引言人介紹 / 紹介人略歴 | 劉兆漢院士 / 劉兆漢院士



現職：

中央研究院特聘講座
中央研究院院士

中央研究院特聘講座教授
中央研究院院士

- 經歷：
- ・ 中央研究院特聘講座 (2011-)
 - ・ 中央研究院副院長 (2006-2011)
 - ・ 台灣聯合大學系統校長 (2003-2006)
 - ・ 財團法人大學入學考試中心主任 (2003-2004)
 - ・ 國立中央大學校長 (1990-2003)
 - ・ 中華民國氣象學會理事長 (1999-2003)
 - ・ 中華民國地球科學學會理事長 (1994-1996)
 - ・ 國立中央大學太空及遙測研究中心講座教授 (1989-1990)
 - ・ 國立台灣大學電機系講座教授 (1981)
 - ・ 國際科聯日地科學委員會 (SCOSTEP) 科學秘書長 (1981-1994)
 - ・ 德國馬克斯蒲朗克高層大氣研究所訪問科學家 (1974)
 - ・ 美國伊利諾大學電機與電腦工程學系助理教授 (1965-1970)、副教授 (1970-1974)、教授 (1974-1993)、名譽教授 (1993-)

- 經歷：
- ・ 中央研究院特聘講座教授 (2011-)
 - ・ 中央研究院副院長 (2006-2011)
 - ・ 台灣聯合大學システム学長 (2003-2006)
 - ・ 財団法人大学入学試験センター主任 (2003-2004)
 - ・ 国立中央大学学長 (1990-2003)
 - ・ 中華民国気象学会理事長 (1999-2003)
 - ・ 中華民国地球科学学会理事長 (1994-1996)
 - ・ 国立中央大学宇宙・リモートセンシング研究センター講座教授 (1989-1990)
 - ・ 国立台湾大学電気電子工学科講座教授 (1981)
 - ・ 国際科学組織 太陽地球系物理学・科学委員会 (SCOSTEP) 科学事務局長 (1981-1994)
 - ・ 独マックス・プランク高層大気研究所訪問科学者 (1974)
 - ・ 米イリノイ大学電気情報工学科助教 (1965-1970)、准教授 (1970-1974)、教授 (1974-1993)、名誉教授 (1993-)

引言人介紹 / 紹介人略歴 | 簡又新博士 / 簡又新博士



現職：

財團法人台灣永續能源研究基金會董事長
社團法人台灣氣候變遷與能源永續協會理事長
中廣新聞網【當地球發燒時】主講人
漢聲廣播電台【長青樹】主講人

財団法人台湾永续エネルギー研究基金会董事長
社団法人台湾気候変動及び永续エネルギー協会理事長
中国広播公司新聞網ラジオ番組「地球が熱を出している」レギュラー出演
漢声広播電台ラジオ番組「エバーグリーン」レギュラー出演

- 經歷：
- ・ 外交部長 (2002-2004)
 - ・ 財團法人國際合作發展基金會董事長 (2002-2004)
 - ・ 總統府副秘書長 (2000-2002)
 - ・ 國家安全會議諮詢委員 (1997-2000)
 - ・ 中英文化經濟協會理事長 (1998)
 - ・ 歐洲復興開發銀行專案顧問 (1997)
 - ・ 駐英國代表、總統府國策顧問 (1993-1997)
 - ・ 交通部長 (1991-1993)
 - ・ 中國工程師學會理事長 (1990-1991)
 - ・ 中華民國環境工程學會首任理事長 (1988-1990)
 - ・ 首任行政院環境保護署署長 (1987-1991)
 - ・ 立法委員 (1983-1987)
 - ・ 淡江大學工學院教授兼院長 (1978-1983)
 - ・ 淡江大學航空工程系副教授、教授、系主任 (1973-1978)

- 經歷：
- ・ 外交部長 (2002-2004)
 - ・ 財団法人国際合作発展基金会董事長 (2002-2004)
 - ・ 總統府副秘書長 (2000-2002)
 - ・ 国家安全會議諮問委員 (1997-2000)
 - ・ 中英文化經濟協會理事長 (1998)
 - ・ 欧州復興開発銀行プロジェクトコンサルタント (1997)
 - ・ 駐英代表、總統府国策顧問 (1993-1997)
 - ・ 交通部長 (1991-1993)
 - ・ 中国工程師学会理事長 (1990-1991)
 - ・ 中華民國環境工程学会初代理事長 (1988-1990)
 - ・ 行政院環境保護署初代署長 (1987-1991)
 - ・ 立法委員 (1983-1987)
 - ・ 淡江大学工学院教授兼院長 (1978-1983)
 - ・ 淡江大学航空宇宙工学科准教授、教授、学科長 (1973-1978)

海部俊樹先生簡介 / 海部俊樹氏略歴



現職：

地球環境行動會議 (GEA) 顧問
國際協力評議會 (Global Cooperation Council) 顧問
財團法人地球環境戰略研究機構 (IGES) 顧問
世界聯邦運動協會 (World Federalist Movement of Japan) 會長
亞洲軟式網球聯盟 (Asian Soft Tennis Federation) 會長
社團法人國際藝術文化振興會 (Japan Art & Culture Association) 會長

地球環境行動会議 (GEA) 顧問
国際協力評議会 (Global Cooperation Council) 顧問
財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 顧問
世界連邦運動協会 (World Federalist Movement of Japan) 会長
アジアソフトテニス連盟 (Asian Soft Tennis Federation) 会長
社団法人国際芸術文化振興会 (Japan Art & Culture Association) 会長

經歷：

1931 年 01 月 生於日本愛知縣名古屋市
1951 年 03 月 畢業於中央大學專門部法科
1954 年 03 月 畢業於早稻田大學法學院法律系
1960 年 11 月 首次當選眾議院議員
1966 年 08 月 擔任勞動政務次官
1974 年 12 月 擔任內閣官房副長官（三木內閣）
1976 年 12 月 出任第 96 任文部大臣（福田內閣）
1985 年 12 月 出任第 106 任文部大臣（中曾根內閣）
1989 年 08 月 就任自由民主黨總裁
08 月 就任第 76 任內閣總理大臣
1990 年 02 月 連任第 77 任內閣總理大臣
1991 年 11 月 因內閣總辭而辭去內閣總理大臣一職
1994 年 06 月 退出自由民主黨，另組高志會，並於 7 月出任自由改革連合代表
12 月 出任新進黨首任黨魁
1998 年 01 月 新進黨瓦解，轉為無黨派
1999 年 01 月 擔任自由黨最高顧問
2000 年 04 月 擔任保守黨最高顧問
2002 年 12 月 擔任保守新黨最高顧問
2003 年 11 月 保守新黨解散，重新加入自由民主黨
2009 年 08 月 自眾議院議員引退

經歷：

1931 年 01 月 愛知県名古屋市生まれ
1951 年 03 月 中央大学専門部法科卒業
1954 年 03 月 早稲田大学法学部法律学科卒業
1960 年 11 月 衆議院議員に初当選
1966 年 08 月 労働政務次官
1974 年 12 月 内閣官房副長官（三木内閣）
1976 年 12 月 第 96 代文部大臣（福田内閣）
1985 年 12 月 第 106 代文部大臣（中曾根内閣）
1989 年 08 月 自由民主党総裁に就任
08 月 第 76 代内閣総理大臣
1990 年 02 月 第 77 代内閣総理大臣
1991 年 11 月 内閣総辞職により内閣総理大臣を辞任
1994 年 06 月 自民党離党、高志会を経て 7 月に自由改革連合代表
12 月 新進党初代党首
1998 年 01 月 新進党分党に伴い無所属
1999 年 01 月 自由党最高顧問
2000 年 04 月 保守党最高顧問
2002 年 12 月 保守新党最高顧問
2003 年 11 月 保守新党解党に伴い自由民主党に復党
2009 年 08 月 衆議院議員引退

海部俊樹先生專題演講 | 題目：邁向永續世界

今天能在此榮獲名門學府「國立中央大學」頒贈名譽博士學位，至感榮幸。湊巧的是，我畢業於日本的同名大學—中央大學，而後又進入早稻田大學，均攻讀法律。

立志投身政治的我，在二十九歲那一年當選為當時最年輕的眾議院議員，直至前些年為止，走過五十年的政治家人生。我曾任日本內閣總理大臣，廣為施行內政、外交各項政策，更視教育及環境問題為畢生志業，傾力推動。我所屬的選區是位在日本中部愛知縣的一宮地區，這裡曾是日本最具代表性的紡織業集中地。當時，日本對環境問題的認識尚嫌不足，紡織廠產生的廢水直接排入河川，導致該流域遭到污染。若置之不理，污染將波及附近居民的生活並破壞周遭環境，這個切身的問題促使我體認到環境問題的重要性。這已是距今超過半世紀前發生的事情了。

不僅是我的家鄉，富山縣也同樣有礦山廢水污染河川的問題，附近居民吃下河裡的魚，紛紛罹患關節劇痛的怪病「痛痛病」；熊本縣則發生汞污染引發的水俣病問題。除此之外，京濱工業地帶等日本各工業區周遭也陸續出現各種問題，如空氣污染引發呼吸系統的難治疾病等。當時，公害對策的實施已是刻不容緩。政府遂要求產業界遵循嚴格的強制性規範，並同步推動啟蒙活動，增進人民對環保的理解與認識，更實施兒童環境教育等，努力不懈地推行各項措施。

近幾年，日本的空氣、河川及海洋的淨化工作已獲得相當程度的成果。然而放眼世界，環境破壞至今仍在全球各地發生，這或許是國家傾全力「發展」所帶來的必然結果，但發展須充分考慮環境保護與均衡發展，這點應不需贅述。

環境破壞不僅關係人類，對同在地球生活的所有生物而言，都是攸關存亡的重大問題。一直以來，我持續對全球呼籲環保的重要。地球環境是人類共同的課題，只有跨越國界、宗教及人種藩籬，齊心團結，共同努力才能成功。

全球環保意識的抬頭陸續促成以環境與發展為議題的元首級國際會議：1992 年在巴西里約熱內盧舉辦的地球高峰會，以及 1997 年在日本召開的京都會議，各國無不致力於環保課題。人類只有比過去更努力不懈，才能實現「永續世界」。

我在有生之年，將持續善用自己的經驗積累，為保護美麗的地球環境奉獻己力。也希望本校，尤其是專攻環境工程的各位同學能夠不僅為台灣，更為全世界，為全球規模的環境保護，貢獻所學。期盼在座各位能更加關心環境問題，從身邊小處開始力行環保，這便是邁向「永續世界」的最佳途徑。

海部俊樹氏記念講演 | 演題：持続可能な世界をめざして

本日、こうして名門、国立中央大学から荣誉ある名誉博士号を拝受いたしましたことは、誠に光栄の至りに存じます。さて、私は奇しくも同名の日本の中央大学を卒業し、更に早稲田大学に学びましたが、いずれも専攻した学科は法律でした。

志を立て、当時最年少の二十九歳で衆議院議員に当選し、先年まで五十年間政治家としての人生を歩んでまいりました。内閣総理大臣を務めたこともあり、内政、外交に広く取り組んでまいりましたが、特にライフワークとして力を注いできたのが、教育と環境問題でした。私の選挙区は、日本の中部、愛知県の一宮地方でありましたが、かつては我が国でも代表的な繊維産業の盛んな地域でした。当時、まだ日本には環境問題に対する認識が甘く、繊維工場からの廃水が直接河川に流され、その流域が汚染されるという問題が発生していたのです。このままこの問題を放置していたら、周辺住民の生活に影響を及ぼし、環境破壊を招いてしまう。この身近な事例が私に環境問題の重要性を強く認識させたきっかけでありました。今から半世紀以上も前のことです。

私の地元だけでなく、富山県では鉱山からの廃水がやはり河川を汚し、その川の魚を食べた近隣の住民が関節に激痛が走るイタイイタイ病という奇病にかかったり、熊本県では水銀汚染による水俣病という難病にかかるという問題が発生しました。また京浜工業地帯をはじめとする各地工業地帯周辺でも、大気汚染によって呼吸器系の難病を生ずるという様々な問題を抱えるようになりました。こうなると一刻の猶予も許されません。産業界に対しても、公害対策の為に厳しい規制を強いると同時に、国民に対しても環境保護への理解と認識を深める啓蒙活動に努めました。更に児童には、環境教育を実施するなどの努力も続けてまいりました。

近年では、大気、河川、海洋も随分浄化されてきております。しかし、世界に目を転じますと、地球の各地で環境破壊が生じているのが現況であり、『開発』に力を入れた国づくりがもたらす結果でありましょう。開発は、環境保全とのバランスに充分配慮しながら進めなければならないことは言うまでもありません。

環境破壊は、人類のみならず地球上に共存する全ての生き物の生存に関わる重大問題であります。私は、広く世界に環境保護を訴えてきました。地球環境は国境、宗教、人種を超越して人類が一丸となって取り組んでいかなければならない共通のテーマであります。

このような認識の高まりから、環境と開発をテーマとする各国首脳レベルによる国際会議が、一九九二年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで地球サミット、一九九七年には我が国に於いて京都会議が開かれ、各国が課題に取り組んでおります。『持続可能な世界』を確立するためには、更に一層の不断の努力が続けられなければなりません。

私は、命ある限り、美しい地球環境を守るために経験を生かして頑張ります。本学、特に環境工学を専攻している学生の皆さん、台湾だけの為ではなく、世界の為、地球規模の環境保全の為に大いに役に立って下さい。御清聴下さいました皆様お一人お一人が環境問題をさらに意識し、身近なところから環境保全に努めて下さい。そのことが『持続可能な世界』を目指す要諦なのであります。



海部俊樹先生得獎感言 / 海部俊樹氏受賞挨拶

我初次訪問台灣已經是 50 年前的事了，因為是第一次的海外旅行，所以印象特別深刻，至今仍留下許多令人難以忘懷的回憶。

去年 3 月是我第四次的訪台，與上一次的訪台竟然相隔了 28 年之久。

母校中央大學の後輩們，長年致力於日台友好交流，因母校與 貴校簽訂合作協議之緣，特別致贈 貴校櫻花以為紀念，並承蒙 貴校舉辦了「友好之櫻」之植樹慶典，我也有幸得以出席。

當時與蔣偉寧校長懇談時，對於我畢生致力於「環境問題」的努力與貢獻，給予相當的肯定與評價，因此得以由 貴校頒贈榮譽博士學位。

本人深感無上的光榮與喜悅。

本次再度訪問台灣，受到大家給予我不變的情誼，內心感動不已。

祈望日台之友好關係能夠長遠延續，謹以誠摯的感謝來代替我的感言。

私が初めて台湾を訪れたのは、50 年以上も昔のことです。しかもそれが初の海外旅行でもあったので、とても印象深く、今でも忘れられない多くの懐かしい思い出が残っています。

昨年3月の訪台は4度目でしたが、数えてみますとなんと28年ぶりのことでした。

母校中央大学の後輩諸君が、長年日台交流を続けてきており、母校との協定記念に貴大学に於いて「友好の桜」植樹祭を催すというので、私もそこに参加をしました。

その折、蔣偉寧学長先生と懇談する中で、私のライフワークの一つであります「環境問題」に対し評価を頂き、この度の名誉博士号拝受ということとなった次第です。

誠に光栄であり、無上の喜びであります。

台湾を訪れる度に、皆様の変わらぬ親日感情に接し、胸が熱くなります。

いつまでも日台の友好関係が続きますことを祈念して、感謝の挨拶に代えさせていただきます。